

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200685		
法人名	社会福祉法人 藍山会		
事業所名	グループホーム 然(2F)		
所在地	岡山県倉敷市連島中央4丁目10-30		
自己評価作成日	平成25年7月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizyosvnoCd=3390200685-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizyosvnoCd=3390200685-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年8月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに」「共にあるを大切に」を事業所のコンセプトに掲げ、個人の尊厳と人権を尊重しながら、その人らしい人生の実現を目指しています。コンセプトを実践すべく「行動規範」を掲げ、職務を遂行する上での戒めとしています。また、利用者に対しては、日常生活をスケジュール化しないで、その時どきの個々の思いや生活習慣を大切にしながらの柔軟な支援を心がけています。趣味を生かした余暇活動、散歩、買い物等を楽しんでいただいています。体操やリハビリ、口腔ケアは、個性を重視し、PTや歯科衛生士等の助言を受けながら行っています。食事は、昼食、夕食を外部に委託して、その分職員が利用者に関わりが持てるようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から2年目を迎え、施設長をはじめとする職員の努力により、ようやく近隣住民の理解が得られるようになり、「地域に根差した生活のできる事業所」に近づいてきた。幼稚園児や小学生の来訪行事は定着し、利用者との交流は双方にとって意義深いものとなっている。「然」という事業所名に込めた、その人のあるがままにを大切にという理念の実践は全職員に浸透し、利用者が思い思いの時間を穏やかに過ごせる場となっている。今年になって追加した「楚々として凛として」という理念は、職員の行動規範にもなっている。また、利用者の骨折等の怪我や重度化による運動機能の低下を防ごうと、医師に相談し、足や指のマッサージやリハビリテーションを積極的に取り入れた所、ふれあいが増えたと同時に、入院する人が減った。人によっては排他リズムが整うなど、いいことづくめとなった。2ヶ月ごとに家族会を実施し、家族の意見を改善に生かす姿勢は、家族からも信頼されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のコンセプトをフロアに掲げて職員がいつでも目に触れることが出来るようにしている。それによって、職員が統一した意識を持ってケアが行えるようにしている。	常に施設長は職員に「あるがままに」等の理念をつ説明し、職員に深く浸透している。利用者は各々のペースで穏やかに生活している。新たに介護者側の行動規範となる「楚々として凛として」を理念に加えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園から様々な催しにご招待戴き参加している。また、町内の盆踊りにも参加している。	日々の挨拶や地域の祭りへの参加など、事業所側からの働きかけが少しずつ実り、近所の人から挨拶されたり、話しかけられることが増えてきた。幼稚園や小学校の訪問行事の受け入れや、法人内の事業所と合同で行う祭りの呼びかけを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の小学生が体験学習として、中学生が演奏会で定期的に訪問して利用者との交流を図っている。将来的には、介護相談窓口の開設を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営状況を説明し、様々な意見を拝聴している。また、会議を通じて、地区の催し物に参加する機会を得ている。	運営推進会議は、家族会長や学校関係者、民生委員など多彩な顔ぶれで、毎回、活発に意見が交換されている。議事録は欠席者も含めたメンバー全員に送られ、前回は踏まえての発展的な議論ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の相談等について、指導、助言をもらっている。	市との日常連絡は少ないが、聞き取り等には真摯に回答している。地域包括支援センターは運営推進会議に毎回参加し、その時に情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や毎月のミーティングにおいて、身体拘束についての研修を行い理解を深めている。基本的には夜間以外は施錠を行っていない。	身体拘束は見受けられず、玄関を含め施錠は一切ない。研修や月ミーティングで注意を促したり、日頃から管理者が注意している。職員は拘束しない大切さを実践を通じて理解し、「ちょっと待って」ではなく「すぐ伺います」と肯定的な言葉での対応を身に付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングにおいて、高齢者の虐待についての研修を行い理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者が数名おり、制度の内容については、利用者とのかかわりの中で理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に説明をさせて頂いている。疑問点や要望などについてもお尋ねし、不安解消に努めている。理解と納得を得られてから、署名・押印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の割合で、家族会を開催している。事業所の運営状況や利用者の様子について説明を行い、ご家族からも意見や要望についてお話を伺っている。	2ヶ月ごとの家族会で出た意見に対し、改善が必要なものは検討し、可能な限り対処して、次回、結果や経過を報告する。報告内容は以前よりも細かい。また、議事録をいつでも閲覧できるよう、玄関に置いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月開催し、業務改善について職員の意見や提案を聞く場としている。喫煙所の設置やサンルーフの取り付け、更衣室の暖房など、職員の意見が反映されているものがある。	管理者は、常に職員が働きやすく意見が言いやすい雰囲気心がけ、定期会議だけでなく、日常的に気軽に話し合えるようにしている。職員の意見から車の増設や、更衣室への扇風機設置などが実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて職員との面談を行い、メンタル面での支援や就業に対する姿勢、やりがい等話を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に毎月参加してもらうようにしている。職員の負担が大きくなるように、勤務時間内の研修参加を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者の専門分科会に代表者が参加している。意見交換や交流を通して、サービスの質の向上に努めている。職員においては実践出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談を受けた後は、本人や家族と面談の時間をとって、状況把握に努めるようにしている。またサービスの内容を説明し、本人や家族の要望等についても詳しく伺い、入居後に安心して生活してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークから契約までに、家族と面談の機会が何回かあるので、その都度、不安なことや要望等については話を伺いながら説明をして、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に、本人や家族の状況を伺って、必要なサービスについての助言を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所のコンセプトである「共にあるを大切に」を常に念頭に置き、一人一人に寄り添った支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や料金支払い時の面会その他、本人の意向を伝えて面会をお願いすることもある。また、体調や日々の暮らしの中に変化があった時は、すぐに報告し、家族と本人とを繋ぐパイプ役を担っている。クリスマス会等のイベントには案内を行い、共に楽しい時を過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達との外食や外泊を楽しんでもらっている。また、面会時には居室でゆっくりお話を楽しんでもらえるように努めている。	家族の来訪頻度は比較的高く、本人と一緒に外出することもある。自宅へ一時帰宅する利用者もいる。家族会を2ヶ月に1度設けるなど、家族の来訪機会を増やそうと努めている。馴染みの美容院や親戚の店などへも継続して足を運べるよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や集団体操などリビングで過ごす時には、職員が利用者の中に入り、利用者同士の会話の橋渡しをしたり、声掛けを行うことによって、利用者同士が関わりを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談時に、可能であれば本人より暮らし方の希望や思いについて話を伺っている。また、日常生活を通して、本人の意向を察するように努めている。意思疎通の難しい場合は、家族から本人の歴史や人柄を十分に伺って、思いに添えるように努めている。	職員はゆったりと利用者に向かい、その話に耳を傾けている。レクリエーションなどは利用者の意向に応じて個別に、もしくは少人数で行っている。会話が難しい利用者に対しては、表情や態度、家族の話から意向を汲み取るようとしている。	重度化により、今までのように自己主張できる利用者が少なくなる中、思いや意向を本当に把握できているかを再検討すると共に、本人が大切にしている人や事柄等の総合的把握ができるよう、期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に本人の「ヒストリー」をわかる範囲で記入をお願いしている。また、在宅で生活していた時のアセスメント等で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月カンファレンスを実施し、職員間で情報を共有している。また、介護記録や業務日誌により、情報を申し送っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決め、担当者を中心にカンファレンス・モニタリングを行っている。本人や家族の意見を聞いたり、生活の中から課題を見つけそれに適した支援方法を介護計画に落とし込むように努めている。	利用者ごとに担当職員を決め、その職員が中心となり、生活記録を参考にし、家族の意見を取り入れた介護計画を練っている。計画表は細かく具体的で、長期目標もわかりやすく、だれもが理解しやすいようにまとめられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や支援内容を介護記録に記入している。また、毎日、午前午後と申し送りをすることによって、職員間の情報の共有を密にして、モニタリングや支援方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎や立会いなど、状況に応じて行っている。また、友人宅や自宅に外出する時も、送迎を行うことがある。生活必需品の調達も家族の依頼によって行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の「老人憩いの家」で行われている、将棋や手芸クラブ等に参加して楽しみを感じてもらえるように計画中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院による往診をお願いしている。従前のかかりつけ医での受診を希望されている方については、家族と連絡を密に図りながら、状態や服薬等の把握に努めている。	往診が安心して便利だと、かかりつけ医を協力医や訪問診療専門機関に変える人が多い。利用者の様子を正確に伝えられるのは日々接する事業所なので、受診時には、できる限り職員が付き添ったり、家族に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理や服薬管理、受診等については、訪問看護師に随時相談しながら行っている。指示内容については、業務日誌や訪問看護記録書に記録をお願いし申し送りにより指示内容を介護職が適切に行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行っている。また、病院にも足を運んで本人と面会し、安心して治療を受けてもらえるように配慮している。退院が決まれば、主治医、担当看護師、ソーシャルワーカーと今後の支援方法を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、重度化や看取り介護の希望はありませんが、希望があれば、看取り介護も行いたいと考えている。そのための体制作りが課題である。	看取りはまだない。訪問看護との連携や心臓マッサージの講習など、少しずつ看取りの環境を整えつつある。重度化指針は重要事項説明書に盛り込み、家族へは口頭で説明しているが、職員、家族共に、看取りへの不安を感じる人がいる。	現状を踏まえた重度化および看取り介護に関する指針を別途作成し、本人や家族に説明し、その同意を文書として取るよう、期待したい。また、看取りへの職員の不安が少なくなるような体制作りを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関より講師を迎えて、心臓マッサージの講習を行った。また、急変や事故発生時の連絡網や対応については、フローチャートで把握出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回、水島消防署の指導の下避難訓練を予定している。また、地区の自主防災設備訓練に参加し、説明を受けた。	消火器の位置や消防署への通報装置の使い方が職員に周知徹底された。火災だけでなく、地震、水害時の対応も消防署と話し合った。避難訓練は利用者も参加している。家具の転倒防止も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼称は「～さん」とし、愛称や「～ちゃん」と呼ばない。排泄介助や入浴介助では、羞恥心に配慮し他者の目に触れないように配慮している。また、居室を訪室するときは、ノックや声掛けをしてから入室するように心がけている。	職員は利用者と目線の高さを合わせ、「○○さん」と優しく、穏やかな口調で言葉をかけている。しかし、「～してください」と言う命令形が時々聞こえた。トイレ誘導はさりげなく、入浴時はタオルをかけるなど、羞恥心に配慮した対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の中から選んでいただけるような声掛けを心がけている。意思伝達が出来ない方には、日々の生活パターンから推測して希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、美容院等、希望があれば出来るだけ意に沿えるように支援している。また、日常生活をスケジュール化しないで、本人の希望することをして過ごしていただけるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やカラーリングを希望される時は、理美容への送迎をしたり、訪問理美容をお願いしている。いつも清潔な服装を身につけていただけるように洗濯をこまめに行っている。季節ごとに衣類の入れ替えをご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に嗜好を尊重した食事を提供している。食事の前には口腔体操を行い、嚥下に留意している。食前食後のテーブル拭きやランチオンマットの用意は利用者が行っている。	食事は利用者の楽しみであると、各人の好き嫌いに対応した献立や職員の検食により、満足度が上がるよう、努めている。ランチオンマットを敷いたテーブル、背の高さに合わせた机や椅子など、見た目のおいしさや食べやすくする工夫も見られた。月1回はみんなで手作りの食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分の摂取量を記録している。食事量や水分量が減っている時は、その原因を究明し対応を考えている。体調管理のみならず、認知症状のパロメーターと理解している。水分確保にゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。必要に応じて介助をしている。定期的に訪問歯科検診をお願いしており、口腔状態や治療の必要性について診断してもらっている。また、歯磨き指導もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間や回数を記録しており、それをもとに排泄の間隔を把握するように努めている。適切なトイレ誘導により、トイレでの排泄が出来るようになってきている。また、仕草や様子から排泄のサインを読み取れるように心がけている。	排泄記録や利用者の素振りから、職員はタイミングを見計らい、さり気ない声かけでトイレに誘導している。運動などで排便コントロールがうまくできるようになり、便失禁が減った。トイレは清潔だが、車椅子用の便座のため、背の低い人にはやや高い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期に合わせて、便秘している人には、服薬コントロールを行っている。また、水分摂取を促したり、体操や散歩などの運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外、毎日入浴を行っている。一日3人ぐらいを目安に、のんびりと入浴出来るように配慮している。また、暑い日にはシャワー浴も随時希望に応じて対応している。	一人ひとりがゆっくりと入浴できるよう、1日の人数を抑え、時間帯の希望にもできる限り対応している。利用者と職員とが1対1になれるため、利用者は心おきなく話し、寛げる時間となっている。排水溝も含めて、毎日掃除され、浴室、脱衣所共に清潔である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高めることで、夜間の安眠が確保出来るように心がけている。休息や就寝の時間については、本人の意思を尊重しており、決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書を個人ファイルで管理している。職員がいつでも確認出来るようにしている。日々の服薬の有無については、業務日誌に記録している。服薬の変更や追加がある時は、業務日誌と申し送りノートに記入し、職員間で確認し把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を持っている利用者は、限られている。楽しみごとを見つける手助けを検討していく必要がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はないが、イベントとして外出に出掛けたり、みかん狩りや紅葉狩りに出掛けた。地区の夏祭りや幼稚園の運動会やおいもパーティ、とんど祭りにも参加した。時候がよくなれば、散歩の回数を増やしていきたい。	気候の良い時は、近くの公園などへ毎日希望者のみで散歩する。敷地隣の菜園を手伝う人もいる。外の空気を吸えるよう、ゴミ出しなどを一緒に行うこともある。車が増えたので、以前よりも車での外出がやりやすくなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、殆んどいない。事業所の立て替えで、パンや菓子類などの買い物をする時は、職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され、自由に電話を使用している利用者はいるが、殆んどの利用者が電話や手紙のやり取りを希望されることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の花を飾ることが多い。また、居間には温度計・湿度計があり、快適な空間を維持するための目安にしている。空気清浄器を2台、冷暖房エアコンを2台設置している。居間の南側には大きな窓があり、採光には十分である。	掃除が行き届いて清潔である。花や観葉植物で潤いが出た。壁際や廊下に腰かけられる場所をたくさん設けている。押しピンを使わないことに加え、ぶつかりやすい部分に緩衝材を巻くなど、さらに安全面が向上している。昨年の指摘事項だった玄関脇の荷物は、カーテンにより目隠しができていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いて、少人数あるいは独りになれる空間を作っている。TVの前にはソファを置いてくつろぎのスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の種類や配置等は本人や家族にお任せし、使いやすく落ち着ける居室にさせていただいている。壁には、カレンダーや写真など気に入ったものを貼って楽しまれている。	掃除はリビングと一緒に毎日行い、清潔さが保たれている。可能な利用者には居室の掃除を手伝ってもらおう。冷蔵庫、本人の絵画作品、鉢植え、仏壇など、思い思いのものを持ち込み、好きなように配置して、その人にとって過ごしやすい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアの横に住所・氏名を書いた表札を掲げており、自分の家が探せるようになっている。廊下の両サイドには手すりが設置してあり、安全に移動出来る。		